

白石町立小学校の統合再編に係る素案

平成 30 年 7 月 白石町教育委員会

具体的統合再編計画

- (1) 有明地域の 3 小学校は、現有明中学校校舎を活用し統合再編する。

統合再編の時期は、校舎の施設設備改修等のため中学校統合再編の 2 年後である 2026 年（平成 38 年）を目途とし、特別支援学級を含め 16 学級（通常学級 12）規模¹の小学校として開校する。

通学については、基準のおおむね片道 4 km を超える牛間田区等の児童の通学方法を検討する。²

なお、新拓地区については、通学距離を考慮し、現行の北明小学校区から有明地域の新小学校区への区域変更や自由校区設定について検討する。

- (2) 白石地域の 4 小学校は、現白石小学校校舎を活用し統合再編する。³

統合再編の時期は、白石地域内の児童数が通常 12 学級相当になる見込みの 2028 年（平成 40 年）を目途とし、特別支援学級を含め 16 学級（通常学級 12）規模⁴の小学校として開校する。

なお、校舎の耐用年が 2030 年（平成 42 年）であるため、全面改築も検討する。

通学については、基準のおおむね片道 4 km を超える杵島山沿いの地区の児童の通学方法を検討する

- ※ 学校を統合再編した場合は、特別支援学級が種別（知的、自閉・情緒、肢体不自由、病弱、難聴、弱視）毎に必要、また同種で 2 教室が必要になる可能性がある。
更に、通級教室も 3 教室以上を確保が必要になる可能性がある。

¹ 現有明中学校は、通常 12 教室の設計。特別 2 教室を特別支援 4 教室に分割するなどして対応する。

² 別添資料 3 「小学校 半径 4 km 範囲」

³ 現六角小学校が、白石地域の中心地に近いが、通常 8 教室の設計のため、現校舎では統合再編後の児童数に対応できない。

⁴ 現白石小学校校舎は、通常 14 教室の設計。通常 2 教室を特別支援 4 教室に分割するなどして対応する。ただし、現在は、2 教室を学童保育に使用中。

(3) 福富小学校は、現行のまま継続する。

これまでのコミュニティ・スクールの取り組みや小中一貫教育の成果と実績を生かし、「地域の学校」として、更なる発展を期待する。

この地域は、比較的児童減が緩やかであり、10年後も学校規模の標準は達成できないものの、1学級30人以上の規模は維持できる見込みである。

ただし、将来的には児童数の減少が推定されることから、白石地域の現白石小学校校舎への吸収統合再編が必要になる可能性がある。

なお、校舎、体育館の耐用年が2030年（平成42年）前に来る⁵ので、大幅な改修は必要である。

⁵ 耐用年数は、校舎が2022年（平成34年）と2028年（平成40年）、体育館が2029年（平成41年）まで。

